

長野県産シダ植物の新産地

上野 勝典・上野由貴枝 (松本市寿北2-2-38)

Katsunori Ueno and Yukie Ueno: New localities of some pteridophytes in Nagano Prefecture

はじめに

長野県下の植物は「長野県植物誌」(清水監修 1997)にまとめられ、希少種については「長野県版レッドデータブック維管束植物編」(長野県 2002)が発行されるなど、数多くの情報が集まってきている。「長野県植物誌」は毎年補遺が出されており(清水編 1998-2003)、また、近年では白馬村(2000)と長野市(2003)で市町村独自のレッドデータブックが作成され、塩尻市では現在作成中である。植物の分布は環境の変化とも密接に関連し、時間とともに変化していくものであり、今後の調査の蓄積が重要な資料になるものと考えられる。

今回 1999 年から 2003 年の間に、松本市、塩尻市を始め県内で確認した植物のうち、既存の文献(松本市 1996、塩尻市誌編集委員会 1991 等)に分布情報の記載がなかったシダ植物について報告する。中にはオサシダやイワイタチシダ等よく見られるにも関わらず記載が無いものもあった。なお、本報告は標本の無いものについては、目視および写真による記録であるが、*印を付けた 9 種類については、標本を大塚孝一氏に同定していただいた。また標本の採集者は上野勝典・上野由貴枝である。

なお、確認日の記載のないものは、松本市の記録は 1999 または 2000 年、塩尻市は 2003 年の調査である。

松本市新産の植物

- (1) カラクサシダ (ホウライシダ科)
Pleurosoriopsis makinoi (Maxim. Ex Makino) Fomin.

入山辺駒越 960m

入山辺扉温泉わさび沢 1220m

カラクサシダは 2 カ所とも溪流沿いの岩上、苔に混じって数株着生していた。

- (2) ウサギシダ (イワデンダ科)
Gymnocarpium dryopteris (L.) Newman

入山辺三城 1580m

入山辺扉温泉わさび沢 1220m

三城地区では、ヨモギコバ林道沿いの、苔むした針葉樹林下に、100m 四方程度のかかなり広い範囲で群生していた。ここにはその他にタガソデソウ、ヒメスミレサイシンなどが見られた。また、扉温泉からの鉢伏山登山道途中に、50cm 四方程度に数株が見られた。

- (3) チャセンシダ (チャセンシダ科)
Asplenium trichomanes L.

入山辺扉温泉 1070m

扉温泉奥の溪流の限られた岩場に 10 数株程度が着生していた。チャセンシダは県南部や北アルプス麓では見られるが、県中部の松本市では自生地が限られているように思う。当地においてはコタニワタリのほか、ヒメサジラン、エゾデンダ、エビラシダ、ヤマヒメワラビなどシダの種類が豊富で自然が多く残された場所であるが、近頃チャセンシダが自生する岩の上部にある林道が崩壊したこと、治山工事がほどこされ環境が大きく変わったため絶滅が心配される。

- (4) リョウメンシダ (オシダ科)
Arachniodes standishii (Moore) Ohwi

里山辺湯ノ原 730m

関東ではスギ林下に大群落を作るなどリョウメンシダはごく普通に見られるが、松本市では必ずしも多くは見られず、湯の原では沢の脇にツリフネソウやアケボノソウなどとともに数株が見られた。

- (5) コタニワタリ (チャセンシダ科)
Asplenium scolopendrium L.

入山辺扉温泉 1070m

チャセンシダと同じ場所の溪流の岸壁に 1 株見出した。ただし、幼株で成長状況もよくなく、近々絶滅するのではないかと心配される。

- (6) ベニシダ* (オシダ科) *Dryopteris erythrosora* (Eaton) O. Kuntze

入山辺追倉沢 850m 2001 年 12 月

16 日 SHIN55396

松本市内で記録がなかったベニシダ(大塚 2001)を初めて目にした。溪流横道路法面上

部に一株のみ自生していた。近年、この付近で砂防ダム工事が行われており、工事中に搬入した土砂に含まれて移入した可能性がある。

- (7) オサシダ(シシガシラ科) *Blechnum amabile* Makino
三才山本沢 1130m
入山辺温泉 1070m

女鳥羽川上流の本沢および扉温泉奥の2箇所において確認した。シシガシラに良く似ているが、鱗片が広披針形で、胞子葉がシシガシラほどはつきりと立たないことなどから簡単に区別ができる。どちらも溪流沿いの岩場でイワイタチシダなどとともに群生していた。

- (8) ミツデウラボシ(ウラボシ科) *Crypsinus hastatus* (Thunb. Ex Murray) Copel.
三才山中の沢 960m

比較的乾いた岩場に普通に見られる着生シダであるが、暖温帯性で松本周辺ではあまり見られない。中ノ沢の一部の岩場では多く自生しており、中でも流れからやや離れた岩場に多数生育していた。本種は、本来葉身の先端が三分裂するが、この場所のものは小型でほとんど分裂しない。

塩尻市新産の植物

- (1) ベニシダ*(オシダ科) *Dryopteris erythrosora* (Eaton) O. Kuntze
宗賀洗馬 790m 2003年8月2日 SHIN55397
下西条矢沢川 810m 2002年3月9日
ベニシダは塩尻市に記録がなかった(大塚2001)が、スギ林下ニカ所で見出した。下西条では100mほど離れた2ヶ所に一株ずつ自生していた。ベニシダは松本市も含めて、どの場所も一株が自生するのみであった。

- (2) オオメシダ*(イワデンダ科) *Deparia pterorachis* (H. Christ) M. Kato
宗賀尾沢 970m 2003年8月11日 SHIN55393

スギ林下、沢沿いの林道に数株が見られた。

- (3) イワイタチシダ(オシダ科) *Dryopteris saxifraga* H. Ito
洗馬奈良井川上流の支流 770m
2003年9月8日

冷温帯性のシダで、県中部の湿った岩場では比較的よく見かけるものの一つである。

過去の記録には記載が無いものの、当地では溪流の岩壁に多数が100m前後にわたって

多数自生しており、生育は旺盛である。葉身が細長く、葉柄の鱗片が下向きに開出している。

- (4) コウヤコケシノブ(コケシノブ科) *Hymenophyllum barbatum* (Bosch) Baker
宗賀南沢 830m

ヒメコケシノブやホソバコケシノブによく似ているが、裂片の片縁に鋸歯があり、容易に区別できる。スギ林内の大きな岩場に着生していた。

- (5) カタイノデ*(オシダ科) *Polystichum makinoi* (Tagawa) Tagawa (写真1)
宗賀尾沢 970m 2003年7月26日 SHIN55392

スギ林下、沢沿いの林道ぎわに親株1個体と、子株10個体ほどがまとまって確認された。また数十mほど離れて子株が1個体見られた。カタイノデは1997年に天竜村、1968年に飯田市で採集されており(大塚1999)、中条村の記録もある(長野県2002)ことから、最近県中北部でも生育してきているようである。カタイノデは暖温帯性のシダで、長野県では絶滅危惧ⅠB類に分類されている(長野県2002)。塩尻市は中条村と天竜村の中間地点で、お互いに遠く離れていることから興味深い分布である。

- (6) オオキョズミシダ*(オシダ科) *Polystichum tsus-simense* var. *mayebarae* (Tagawa) Kurata (写真2)
宗賀床尾 970m 2003年8月2日 SHIN55394

スギ林内にある石灰岩の岩場で、一株が自生しているのを見出した。オオキョズミシダは基準変種のヒメカナワラビによく似ているが、羽片の切れ込みがやや浅く、裂片が羽軸に沿着する傾向が強いこと、また胞子囊群が葉の上部から付き始めることから、オオキョズミシダとした。石灰岩にはイチョウシダが多数着生しており、また、林下にはヤマヤブソテツとコタニワタリが約50m四方に渡って旺盛に群生し、植生が特異である。過去に石灰岩の採掘が行われ、人の手がかなり加わっていたのではないかと想像される。オオキョズミシダは長野県では絶滅危惧ⅠB類に分類されている(長野県2002)。県南部の天竜村、南信濃村と県北部の小谷村で記録されており、中部の塩尻市から見出されたことは注目される。カタイノデとともに、暖温帯性シダが県

中部にまで進出してきているものと考えられる。

- (7) ウスヒメワラビ* (イワデンダ科)
Acystopteris japonica (Luer ss.)
 Nakai
 宗賀釜之沢～南沢 830m 2003年7月26日 SHIN55395

釜之沢沿いに数箇所にわたって、小群落が見られる。この流域は塩尻市でも、比較的シダの種類が多い地域で、30種前後のシダを観察することができる。その他この流域ではマルバノキが見られ、分布上、本州の東端に近いのではないと思われる。

- (8) ヒモカズラ* (イワヒバ科)
Selaginella shakotanensis
 (Franch.) Miyabe et Kudo
 宗賀聖人岩 970m 2003年8月17日 SHIN55398

鳴雷山東の尾根にある岩場で大きな群落を発見し、旺盛な生育状況であった。「塩尻市誌」にエゾノヒモカズラの記録がある(塩尻市誌編集委員会 1991)が、ヒモカズラの誤認と思われる。

その他の地域

- (1) 丸子町のベニシダ* (オシダ科)
Dryopteris erythrosora (Eaton) O. Kuntze
 丸子町内村ダム 850m 2003年5月3日

国道254号から内村ダムへと下る途中の道路法面に、ベニシダが一株自生していた。

〔標本 NAC (長野県自然保護研究所)〕

- (2) 南信濃村のヌリトラノオ(チャセンシダ科) *Asplenium normale* D. Don
 南信濃村木沢遠山川 520m 2003年6月14日

遠山川の川沿い道路わきの岩で、ヌリトラノオが一株着生しているのを見つけた。長野県では絶滅危惧ⅠB類に分類され(長野県 2002)、大桑村と天竜村で記録されている。この流域はクラガリシダやウロコノキシノブなどの稀少植物を産する地域であり、また、マメヅタやオオキヨズミシダなどの暖温帯性の植物も見られることから、植物分布上興味深い場所である。

- (3) 安曇村白骨のトヨグチイノデ(オシダ科) *Polystichum ohmurae* Kurata
 安曇村白骨 1390m 2001年8月13日
 白骨温泉において、アオチャセンシダやト

ガクシデンダが旺盛に生育している石灰岩の岩場で発見した。岩場の上方にはトヨグチイノデが、下方ではホソイノデが多く、両種が接近して自生していることから、将来、両種間の雑種が発見される可能性がある。安曇村では番所で報告があるが、白骨地区での記録がなかった(安曇村誌編集委員会 1998)。

- (4) 望月町のトヨグチイノデ* (オシダ科) *Polystichum ohmurae* Kurata
 望月町春日溪谷 1660m 2002年7月20日

2001年に田尻祝氏から標本を送っていただき、大塚孝一氏によりトヨグチイノデと確認された。翌年、現地を訪れ、トヨグチイノデの自生状況を確認したが、限られた部分に10株程度が認められた。

おわりに

1999年から2003年の5年間、松本市を中心に観察してきたが、このわずかの期間で急速に環境が悪化していることを感じた。扉温泉付近の林道崩落によりチャセンシダ群落は危機的状態となり、女鳥羽川上流本沢のエゾデンダ群落は砂防ダムで埋まりつつある。同様にアオキランの自生地付近に砂防ダムを構築する計画があるらしく、砂防ダムによる土砂の堆積で貴重な植物が埋まる可能性がある。入山辺追倉沢や藤井沢にも大きな砂防ダムが完成しているが、その少し上にも貴重な植物がある。美ヶ原林道では、タデスミレやイワカゲワラビなどの貴重な植物群落があるが、道路拡張により法面に外来植物が植えられるなど自生環境に影響を与える可能性がある。また浅間温泉の山火事によって樹木が焼失し、日当たりが良くなったことからキセワタやカリガネソウの環境も悪化している。その一方で、塩尻市ではベニシダをはじめ、暖温帯性シダが見つかり始め、地球温暖化が県の内陸部へ影響を及ぼしているように感じられる。貴重な郷土の植物が環境変化により絶滅しないか気がかりであり、今後の環境変化に注視しつつ、観察を続けていきたい。

謝辞

観察に一部同行いただいた、加藤範夫氏、田尻正宏氏、田尻祝氏、永田芳男氏、総谷文清氏、小山泰弘氏と、シダ植物の同定を頂いた長野県自然保護研究所の大塚孝一氏に感謝の意を表します。また、本報告の作成にあたり、貴重な助言をいただいた総谷文清氏、田

尻祝氏、小山泰弘氏ならびに大塚孝一氏には、重ねて心より感謝いたします。

引用文献

安曇村誌編纂委員会 (1998) 安曇村誌 第一巻 自然.

大塚孝一 (1999) 長野県のシダ植物雑記 (8). 長野県植物研究会誌 32: 52-54.

大塚孝一 (2001) 長野県におけるペニシダの分布. 長野県植物研究会誌 34: 25-34.

塩尻市誌編纂委員会 (1991) 塩尻市誌 第一巻 自然.

清水建美監修 (1997) 長野県植物誌. 信濃毎日新聞社.

長野県 (2002) 長野県版レッドデータブック 維管束植物編.

長野市 (2003) 大切にしたい長野市の自然 305pp.

白馬村 (2000) 白馬村の貴重な動植物-白馬村版レッドデータブック 96pp.

松本市 (1996) 松本市史 第一巻 自然編.

写真1 カタイノデ 2003年7月26日 塩尻市尾沢



写真2 オオキヨズミシダ 2003年8月2日 塩尻市宗賀

